

GARMIN®

FORCE® トローリングモーター インストールガイド

はじめに

⚠ 警告

製品に関する警告およびその他の重要な情報については、製品パッケージに同梱されている『安全性および製品に関する重要な情報』ガイドを参照してください。

このデバイスを以下の手順に従って設置しない場合、怪我を負ったり、船舶やデバイスが破損したり、製品の性能が低下したりするおそれがあります。

プロペラが水中から出ているときは、モーターを作動させないでください。回転するプロペラに触れると、重傷を負うおそれがあります。

ご自身や水中の他の人が回転するプロペラに接触する可能性のあるエリアではモーターを使用しないでください。重傷を負う恐れがあります。

重傷を負ったり、死亡事故の発生を防ぐため、プロペラ、プロペラ駆動モーター、電気接続部、または電子機器エンクロージャで操作または作業を行う場合は、事前に必ずモーターをバッテリーから外してください。

⚠ 注意

最大限の性能を発揮し、怪我、デバイスの損傷、船舶の損傷を防ぐために、認定技術者による設置をお勧めします。

目や耳の保護、または粉塵による被害等を防止するため、掘削や切断、研磨作業等を行う際には、常に安全メガネや防音用の耳栓、防塵マスクを着用してください。

モーターを格納または展開するときは、可動部への巻き込みや挟み込みによって負傷するおそれがあるので、注意してください。

モーターを収納または展開するときは、安定した足場を確保し、モーター周囲の滑りやすい表面に注意してください。モーターの収納または展開中に足場が失われると、怪我をする可能性があります。

トローリングモーターを収納した後は、モーターが予期せず展開しないように、安全ストラップを必ず固定してください。モーターが予期せず展開すると、怪我をしたり、船舶やトローリングモーターが損傷する可能性があります。

注記

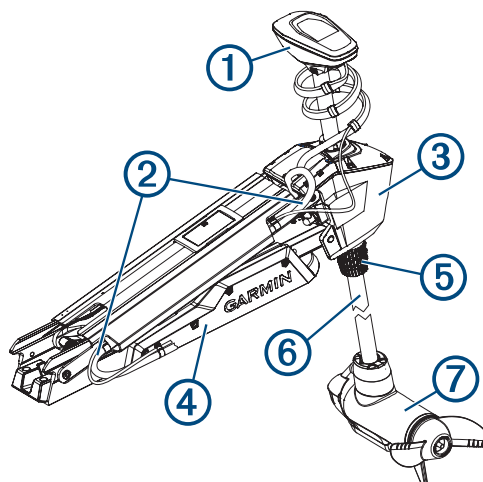
船舶の破損を防ぐため、ドリルで穴を開けたり、のこぎりで切断したりする場合は、表面の反対側に何があるか常に確認してください。

必要なツールと備品

- ドリルと 8 mm ($\frac{5}{16}$ in.) ドリルビット
- #1 プラスドライバー
- #2 プラスドライバー
- 3 mm および 4 mm の六角ビットまたはレンチ (4 mm x 2 を推奨)
- 14 mm ($\frac{9}{16}$ in.) ソケット
- トルクレンチ
- 連続 60 A 定格のサーキットブレーカー
- 定格 60 A 以上のトロローリングモータープラグおよび電源コンセント (オプション)
- 電源ケーブル延長用 6、4、2 AWG (16、25、35 mm²) ワイヤ
- 電源ケーブルを延長する場合は、ハンダおよび熱収縮チューブ
- ステンレススチールパンヘッド $\frac{1}{4}$ -20 (M6 x 1) ボルト (付属のボルトがモーターをデッキに取り付けるのに十分な長さでない場合)

取り付けの準備

デバイスの概要



①	シャフトキャップ
②	電源と振動子ケーブル
③	ステアリングシステム
④	マウント
⑤	深さ調整カラー
⑥	シャフト
⑦	プロペラドライブモーター

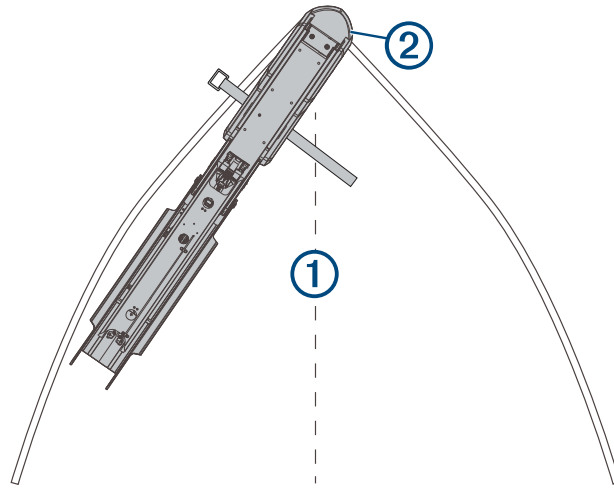
取り付けに関する注意事項

⚠ 注意

モーターは、展開時にツールボックスなどの大きな金属物体がディスプレイパネルの近くにない場所に設置する必要があります。大きな金属物体が磁気コンパスに干渉し、内蔵された自動操縦の性能に影響を与え、怪我をしたり、物的損害につながる可能性があります。

取り付ける場所を決めたら、次の注意事項に従ってください。

- ・ モーターは船首に取り付ける必要があります。
- ・ 設置されたモーターが可能な限りボートの中心ライン ① に近くなるようにマウントを取り付ける必要があります。



- ・ バンパー ② がボートの船べりに被さるようにマウントを取り付ける必要があります。
- ・ モーターはボルトでボートのデッキに固定されているため、ワッシャーとナットを使用してマウントを下側から固定するスペースが必要です。
- ・ モーターを設置位置から収納位置に移動して元の位置に戻すための空間が必要なので、設置位置に障害物がないようにする必要があります。
- ・ トローリングモーターの重量と出力に対して、デッキに十分な強度があることを確認してください。必要に応じてバックアッププレートを使用したり、ボートを補強したりします。

パーツバッグ

トローリングモーターの取り付け金具は、ラベル付きの袋に入っています。取り付けプロセスを完了する際には、手順を完了するために必要なパーツバッグのラベルを参照することから各手順が始まります。この表を使用して、取り付け手順に必要なパーツバッグを確認または検証できます。

Ⓐ	安全ストラップと、マウントベースをボートデッキに固定するために使用する金具が含まれています。
Ⓑ	ステアリングシステムをマウントの下半分に固定するために必要なピンが含まれています。
Ⓒ	上部および下部ガススプリングを固定するために必要な金具が含まれています。
Ⓓ	ステアリングシステムをマウントの上半分に固定するために必要なピンが含まれています。
Ⓔ	プルケーブルハンドル金具が含まれています。
Ⓕ	ケーブルをマウントに固定するために必要な金具が含まれています。

接続に関する注意事項

配線を接続する際は、次の点に注意してください。

- ・ トローリングモーターは、60 A を連続供給できる DC 24 または 36 V のバッテリーバンクに接続する必要があります。
- ・ 連続 60 A 定格のサーキットブレーカー（付属していません）を介して電源に接続する必要があります。
- ・ 必要に応じて、延長する長さに基づく適切なワイヤゲージを使用して電源ケーブルを延長できます（[電源ケーブルの延長](#), 17 ページ）。
- ・ 利便性向上のため、モーターを電源から簡単に取り外すことができるように、定格 60 A 以上のトローリングモータープラグとコンセント（付属していません）をバルクヘッドに取り付けできます。

取り付け手順

注記

モーターを組み立てるときは、ハンドツールを使用してすべての部品を取り付け、指定されている場合はトルク仕様を遵守する必要があります。ユーティリティを使用してモーターを組み立てると、コンポーネントが損傷し、保証が無効になるおそれがあります。

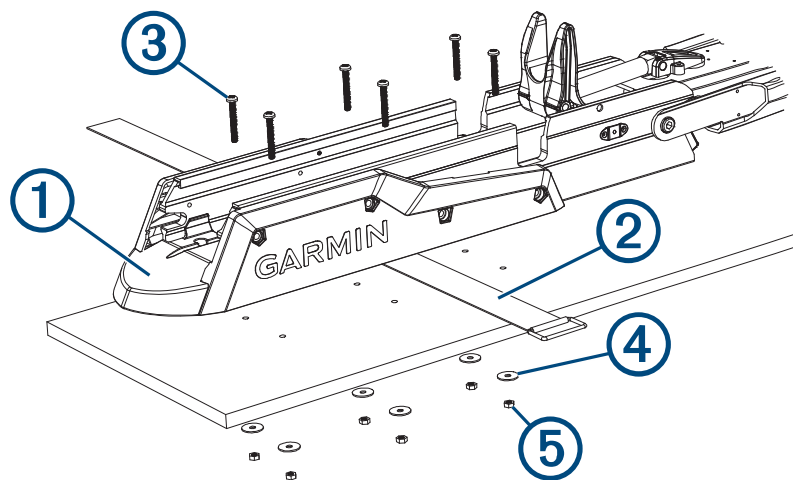
デッキへのマウントの取り付け

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

Ⓐ

注：付属のボルトの長さが取り付け面に対して十分でない場合は、適切な長さのステンレススチールパンヘッド $\frac{1}{4}$ -20 (M6 x 1) ボルトを用意する必要があります。

- 1 取り付け時の考慮事項に従って、船首で取り付け場所を選択します。
- 2 マウントの上部を上下に回転させて、マウントベースの取り付け穴に届くようにします。
- 3 付属の取り付けテンプレートを取り付け位置に配置し、テンプレート ① の取り付けバンパーを、船べりまたはボートデッキの端に張り出すようにします。



注：ベースの船首端の左舷側には、2つの取り付け穴オプションがあります。取り付け角度と船体形状に応じて、使用する取り付け穴を選択できます。

- 4 ボートデッキの取り付け穴の位置にマークを付けます。
- 5 8 mm ($\frac{5}{16}$ in.) ドリルビットを使用して、取り付け穴を開けます。
- 6 面ファスナーを下向きにして、安全ストラップ ② を中央近くのマウントベースの下に置きます。

注：安全ストラップは、取り付け面に固定する前に、マウントの下に置く必要があります。この時点で安全ストラップを取り付けない場合は、後でモーターを部分的に分解して正しく取り付ける必要があります。

- 7 ボートデッキ上のマウントベースを安全ストラップの上に置き、マウントの穴を取り付け穴に合わせます。

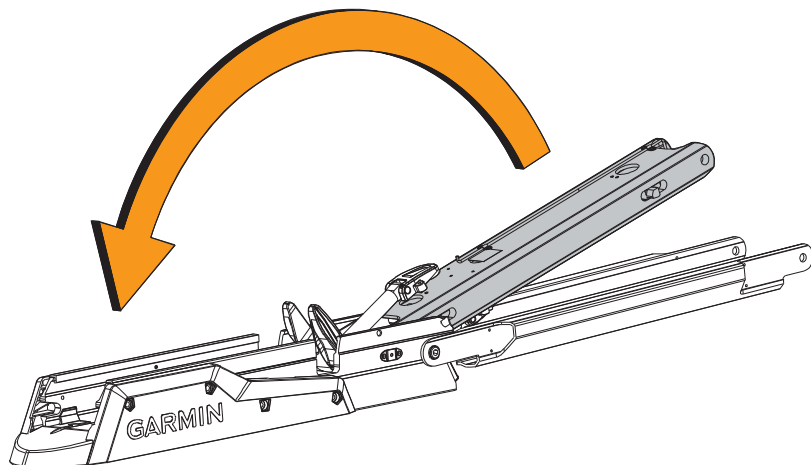
- 8 付属のボルト ③、ワッシャー ④、ロックナット ⑤ を使用して、マウントをデッキに固定します。
- 9 ナットを 10.85 N m (8 lbf-ft.) で締め付けます。

マウントの下部リンクにステアリングサーボを取り付ける

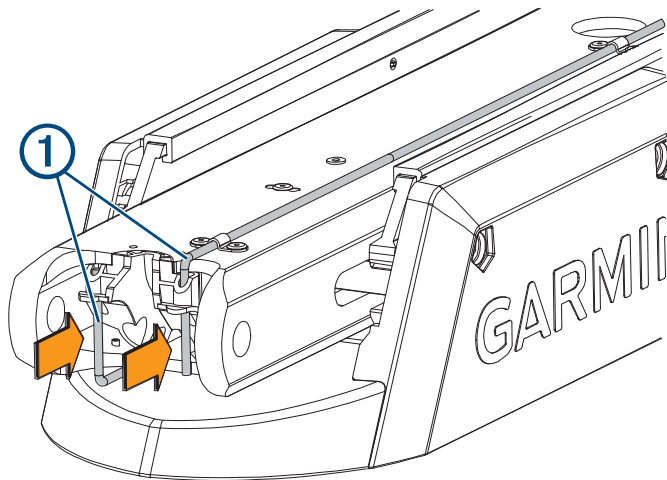
この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

Ⓑ

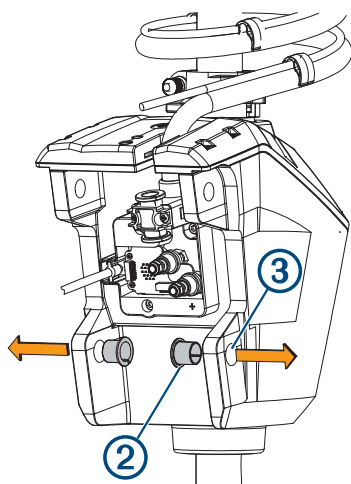
- 1 ベースにロックされるまでマウントの下部リンクを前方に回します。



- 2 2本のセーフティロッド ① を下部リンクにできる限り押し込みます。

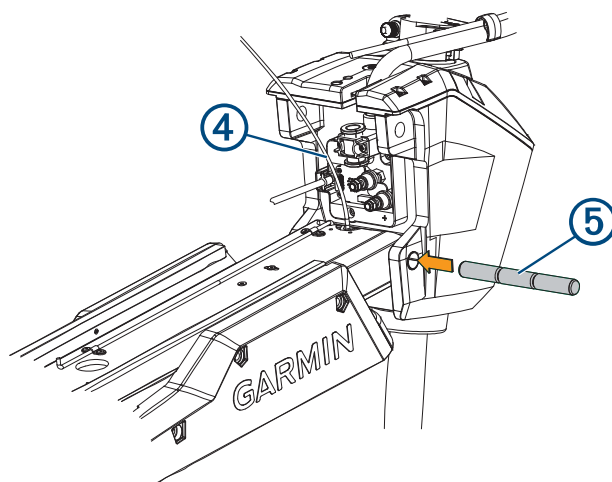


- 3 ブッシュ ② がステアリングサーボハウジングの下側の穴 ③ に取り付けられていることを確認します。



ブッシュを取り外した場合は、内側から再度挿入できます。

- 4 プルケーブル ④ を引き上げたまま、ステアリングサーボハウジングをマウントの下部リンクに置き、ハウジングの下部の穴をリンクの穴に合わせます。

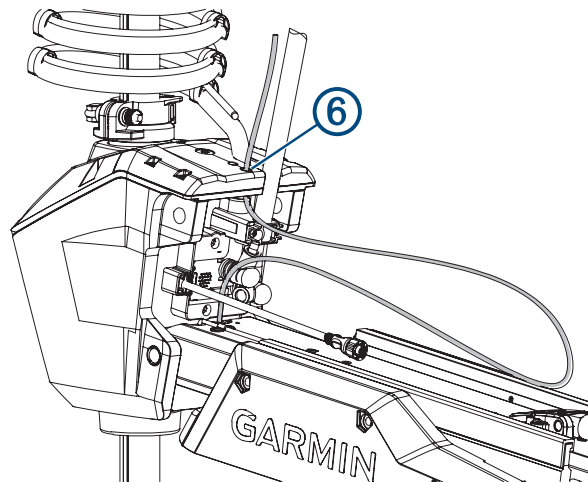


- 5 ステアリングサーボハウジングを持ち上げながら、ピボットピン ⑤ をハウジングとリンクに押し込んで所定の位置に固定します。

注記

ハンマーなどでピンを叩かないでください。ドリルで穴を開けたり、穴を変更したりしないでください。ピンはぴったりとフィットしますが、ピンは手で押すと完全にスライドします。ピンを打ち込んだり、穴を変更したりしたことで発生した損傷は、保証の対象にはなりません。

- 6 プルケーブルをステアリングサーボハウジング ⑥ の上部を通して上方に配線します。

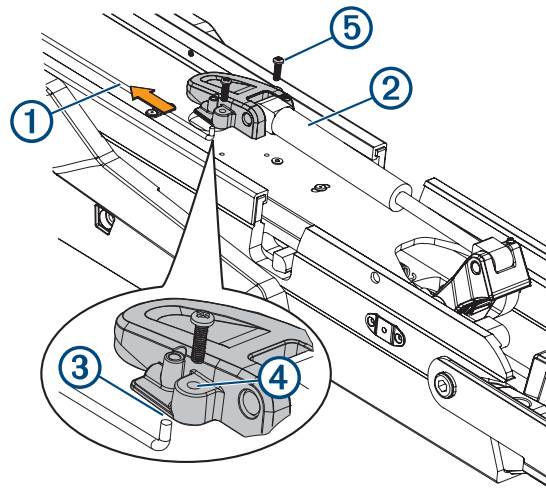


上部ガススプリングの固定

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

③

- 1 セーフティロッド ① をステアリングサーボハウジングの方向にできるだけ押し込み、下部ピボットピンを所定の位置にロックします。



- 2 必要に応じて、上部ガススプリング ② をマウントの下部リンクに向けて回転させ、ガススプリングのベースがセーフティロッドと取り付け穴に合うようにします。

△ 注意

ベースをマウントの位置に合わせるためにガススプリングを回転させる必要がある場合は、スプリングを時計回り方向にのみ回転させます。ガススプリングを反時計回りに回すとフィッティングが緩む可能性があり、ガススプリングの早期故障につながる可能性があります。これにより、モーターの収納または展開中に怪我をしたり、物的損害が発生する可能性があります。

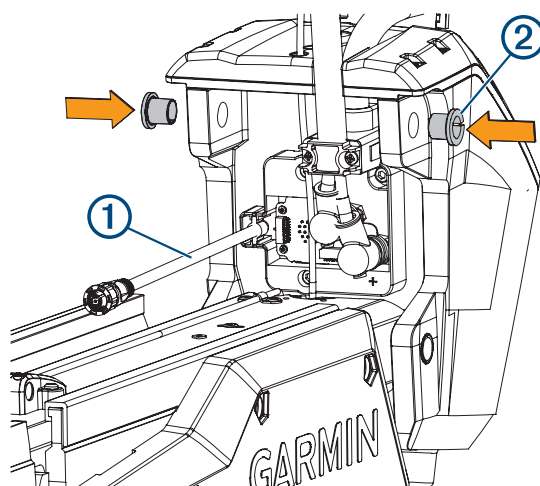
- 3 ガススプリングのベース ③ の1つの穴を安全ロッドに合わせ、押し下げます。
ベースのねじ穴 ④ とマウントの底面の穴の位置を合わせます。
- 4 #2 プラスドライバーを使用して、付属のねじ ⑤ でガススプリングのベースをマウントの下部リンクに固定します。
- 残りのねじはパーツバッグに入れておきます。後の手順で他のガススプリングを固定する場合に、これらを使用する必要があります。

マウントの上部リンクをステアリングサーボハウジングに接続する

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

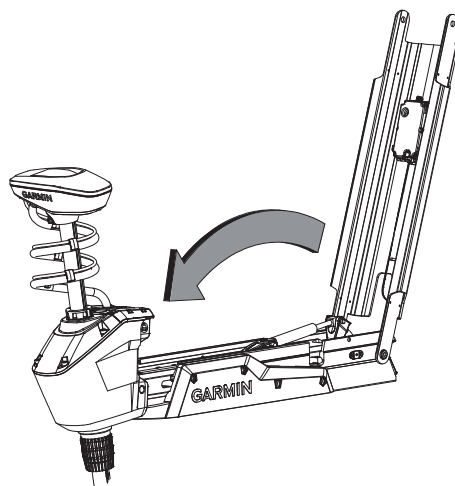
①D

- 1 データケーブルをステアリングサーボハウジングに固定しているテープ ① を取り外します。
- 2 ブッシュ ② がステアリングサーボハウジングの上側の穴に取り付けられていることを確認します。



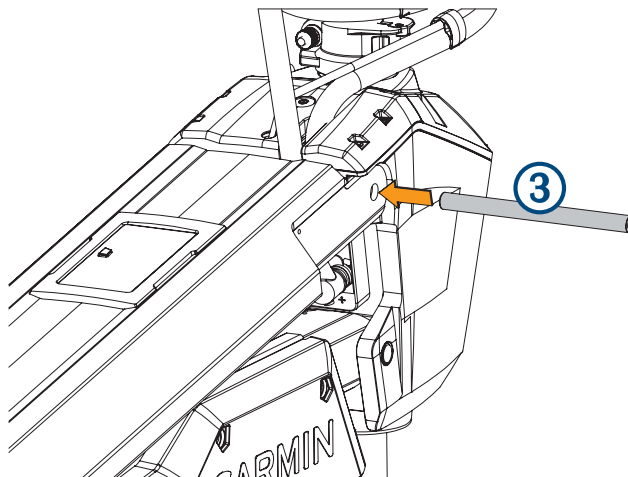
ブッシュを取り外した場合は、外側から再度挿入できます。

- 3 マウントの上部リンクを前方に回転させます。

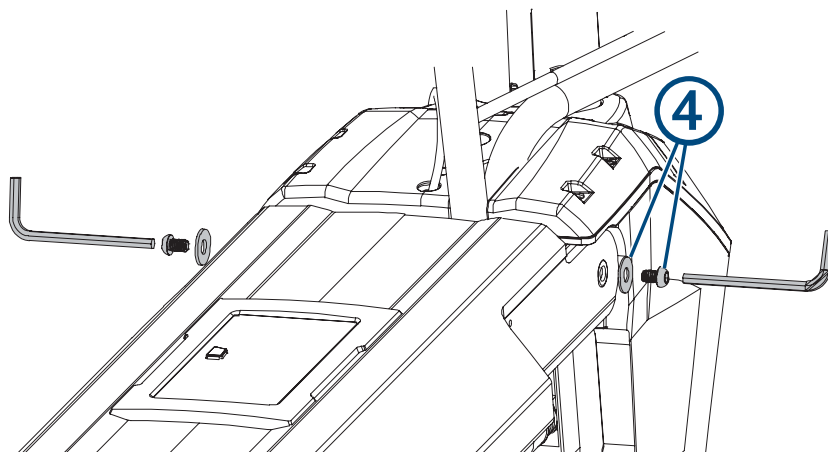


- 4 ステアリングサーボハウジングの上部を内側に傾けて、上部リンクとハウジングの穴が合うようにします。

5 ピン ③ をマウントの上部リンクの穴とステアリングサーボハウジングに押し込みます。



6 4 mm の六角ビットまたは六角レンチを使用し、両側にねじとワッシャー ④ を使用してピンを固定します。



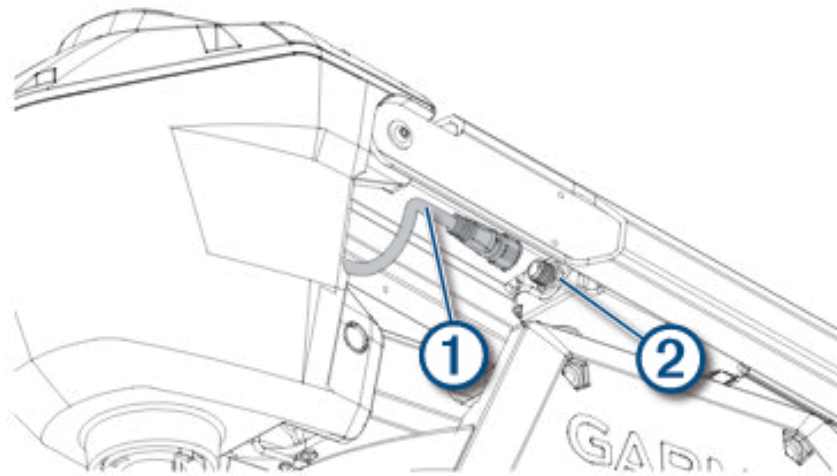
注：ピンを適切に固定するには、2本の六角ビットまたはレンチを使用して、ねじを締めたときにピンが回転しないようにする必要があります。

モーターのディスプレイパネルへの接続

注記

取り付けを続行する前に、ステアリングサーボからディスプレイパネルにケーブルを接続する必要があります。この接続をここで行わないと、マウントを移動する際に固定されていないケーブルがディスプレイパネルを損傷する可能性があります。

- 1 ケーブル ① をステアリングサーボハウジングからマウントの上部リンクのディスプレイパネル ② に配線します。



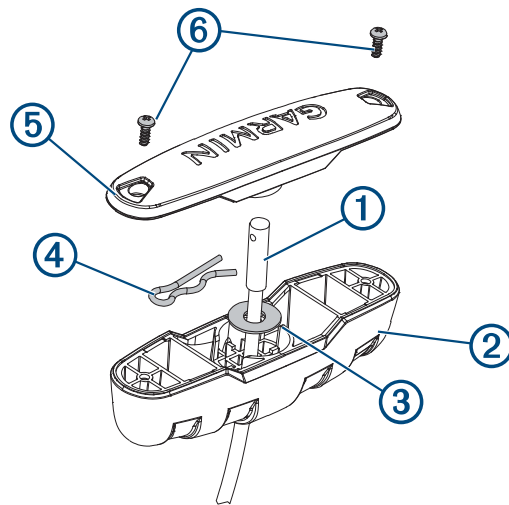
- 2 コネクタをディスプレイパネルのポートの上に押し込み、ロックリングを時計回りに回して固定します。
注：コネクタは、一方向にのみポートに収まるように設計されており、正しく位置合わせすると簡単に取り付けることができます。コネクタをポートに無理に差し込まないでください。

プルケーブルへのハンドルの取り付け

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

⑤

- 1 プルケーブル ① をハンドル ② の下半分に挿入します。



- 2 プルケーブルをワッシャー ③ に挿入します。
- 3 R ピン ④ をプルケーブルの端にある穴に通します。
- 4 ワッシャーと R ピンがハンドルの下半分に収まるようにケーブルを引き下げます。
注：R ピンはハンドルの下半分に一方向にのみ取り付けられます。
- 5 #1 プラスドライバーを使用し、ねじ ⑥ を使用してハンドル ⑤ の上部を底部に固定します。

電源ケーブルと振動子ケーブルのマウントを通した配線

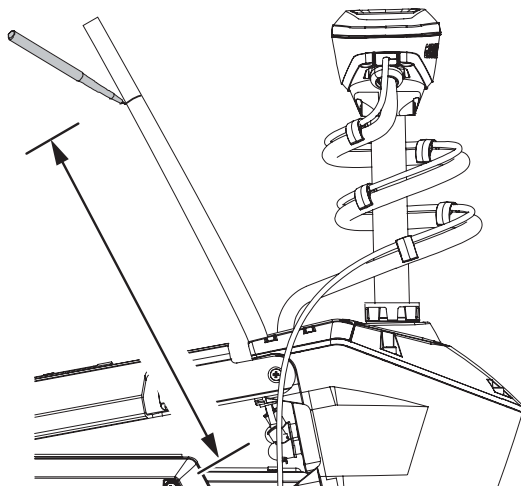
この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

⑥

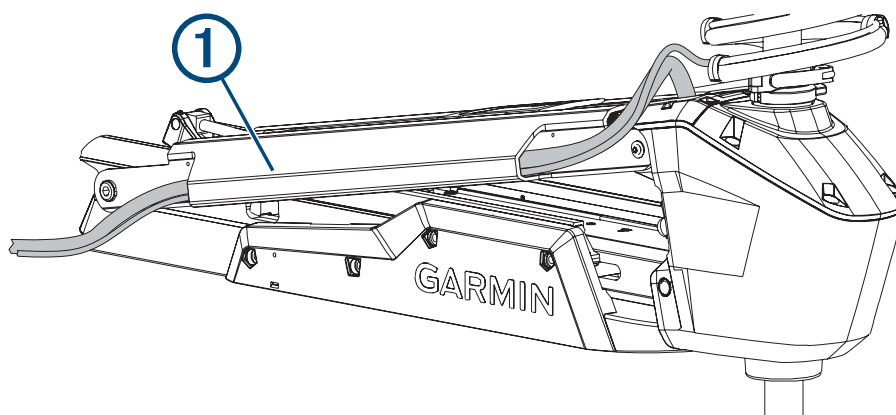
注記

トロローリングモーターの設置および収納時に電源ケーブルと振動子ケーブルを損傷しないようにし、モーターのGPSとヘディングセンサーとの干渉を避けるために、ケーブルはマウントの右側（右舷）を通り、付属の金具で固定する必要があります。電源ケーブルは、マウントの左側（左舷）を通るように配線しないでください。左側（左舷）に付属のブラケットを取り付けることはできません。左側（左舷）は、将来取り付ける可能性のある追加のアクセサリまたは振動子ケーブル用に予約されています。

- 1 電源ケーブルがステアリングサーボハウジングに接続されている場所から約 40 cm (16 in.) の位置を測定し、出荷時に付けられているマークを探します。



- 2 ケーブルにマークが表示されない場合、またはマークが接続部から約 40 cm (16 in.) 離れていない場合は、マーカーまたはテープでマークを付けます。
- 3 モーターを設置した状態で、振動子ケーブルをマウント ① の右側（右舷）のチャンネルに沿って配線します。



ヒント：マウントの右側（右舷）を判断するには、ディスプレイパネルの情報を読み取れる場所に立ちます。

- 4 電源ケーブルを振動子ケーブルの上のチャンネルを通して配線します。

5 プルケーブルを使用して、モーターを設置位置から収納位置まで慎重に持ち上げます。

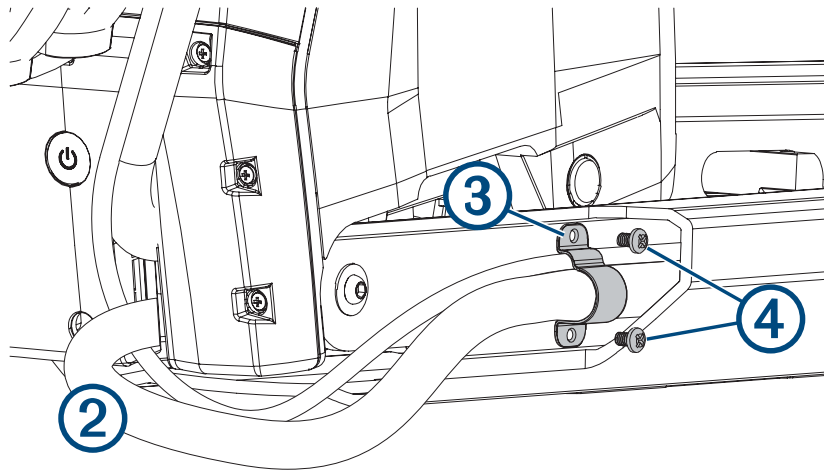
△ 注意

設置時にはリフトアシストガススプリングの1つのみがこのポイントで固定されているため、モーターを収納位置まで持ち上げるときは注意が必要です。モーターの重量により、マウントが急に動いて、手や指が挟まれたり押しつぶされたりするおそれがあります。

注記

モーターを収納位置にして、ケーブルをマウントに固定する必要があります。モーターを展開位置にした状態でこの手順を完了すると、ケーブルが完全に延長された長さにならず、使用中にケーブルにストレスがかかり、ケーブルが損傷する可能性があります。

6 ケーブル②の丸みをそのままにして、ケーブルがチャンネルに入るときにマウントの側面に沿ってケーブルを保持します。

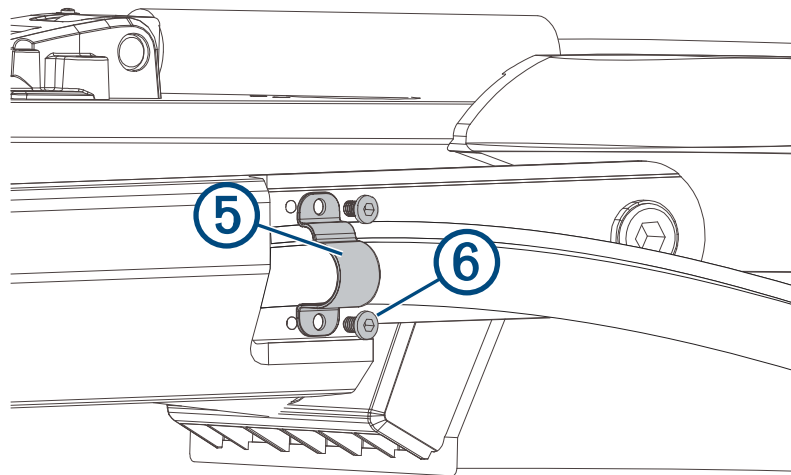


7 電源ケーブルのマークした位置に、ネジ穴が2つあるブラケット③の1つをケーブルの上にマウントに対して置き、ブラケットの穴をマウントの穴に合わせます。

8 3 mm の六角ビットまたはレンチを使用して、2本のねじ④でブラケットをマウントに固定します。

9 ケーブルがチャンネルから出るように、ケーブルをマウントの底部に向けて持ちます。

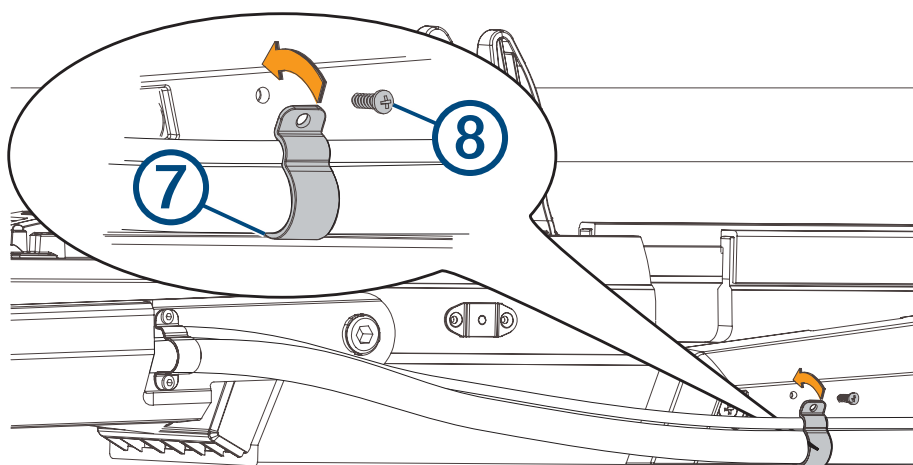
10 2つのねじ穴がある他のブラケット⑤をケーブルの上でマウントに向けて配置し、ブラケットの穴をマウントの穴に合わせます。



11 3 mm の六角ビットまたはレンチを使用して、2本のねじ⑥でブラケットをマウントに固定します。

12 ケーブルをマウントベースのプラスチック部分に向けてポートデッキの近くで持ちます。

- 13 残りのブラケットの下部のタブをケーブルの下のスロット ⑦ に挿入し、ブラケットをマウントベースの方向に回転させてケーブルを固定します。



- 14 #1 プラスドライバーを使用して、ブラケットの上部タブを1本のねじ ⑧ でマウントベースに固定します。
- 15 追加のプラスチックケーブルクリップを取り付けて、必要に応じて振動子ケーブルを電源ケーブルに固定します (オプション)。
パーツバッグには、プラスチックケーブルクリップが2個入っています。

下部ガススプリングの固定

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

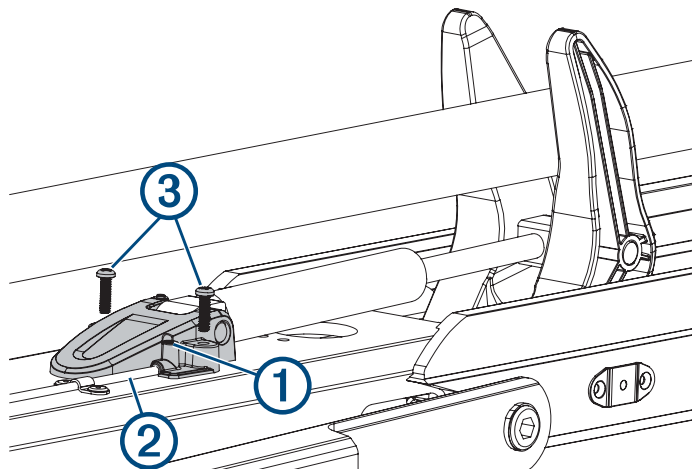
③

注：この手順では、上部ガススプリングを取り付ける際に使用したパーツバッグの残りの金具を使用します。

1 必要に応じて、トローリングモーターを展開位置から収納位置に切り替えます。

モーターを収納した後にガススプリングがマウントの反対側に配置されている場合は、マウントを持ち上げ、ガススプリングを裏返し、マウントに固定できるようにする必要があります。

2 下部ガススプリングのベースの穴 ① を安全ロッド ② に合わせ、押し下げます。



⚠ 注意

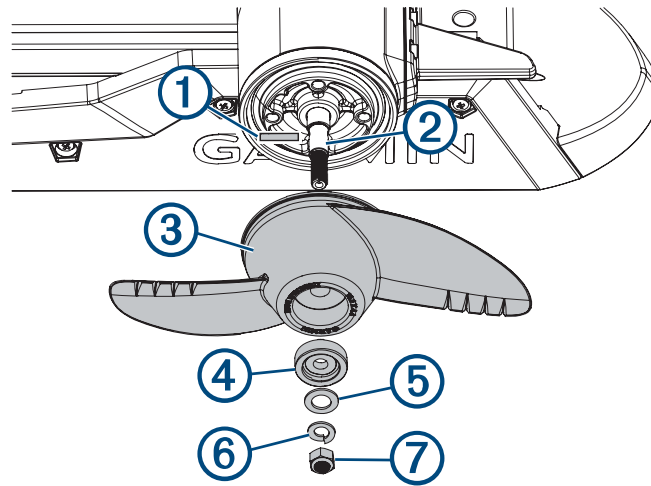
ベースをマウントの位置に合わせるためにガススプリングを回転させる必要がある場合は、スプリングを時計回り方向にのみ回転させます。ガススプリングを反時計回りに回すとフィッティングが緩む可能性があり、ガススプリングの早期故障につながる可能性があります。これにより、モーターの収納または展開中に怪我をしたり、物的損害が発生する可能性があります。

3 #2 プラスドライバーを使用して、付属のねじ ③ で下部ガススプリングのベースをマウントに固定します。

プロペラの取り付け

この手順に必要な金具が入ったパーツバッグはプロペラの入ったボックスに含まれており、ラベルは付いていません。

- 1 ピン ① をプロペラモーターシャフト ② に通します。



- 2 必要に応じて、モーターシャフトを回転させてピンを水平にし、取り付け時に落ちにくくなるようにします。
- 3 プロペラの内側のチャンネル ③ をピンに合わせ、プロペラをモーターシャフト上でスライドさせます。
- 4 陽極 ④、ワッシャー ⑤、ロックワッシャー ⑥、ナット ⑦ をモーターシャフトの端に置きます。
- 5 14 mm ($\frac{9}{16}$ in.) ソケットで、ロックナットを 16.27 N-m (12 lbf-ft) で締め付け、プロペラを固定します。

電源を接続する

⚠ 警告

重傷を負ったり、物的損害を避けるため、トロローリングモーターの電源ケーブルを接続する前に、サーキットブレーカーをオフの位置に入れておく必要があります。

- 1 電源ケーブルをブレーカーパネルまたはブレーカーを設置する場所まで配線します。
- 2 必要に応じて、延長する長さに基づく適切なワイヤゲージを使用し、ハンダおよび熱収縮チューブを使用して、電源ケーブルを延長できます ([電源ケーブルの延長, 17 ページ](#))。
- 3 電源ケーブルがバルクヘッドに入る位置に、定格 60 A 以上のトロローリングモータープラグと電源コンセントを取り付けます (オプション)。
- 4 定格 60 A のサーキットブレーカー (連続) に電源ケーブルを接続します。
- 5 必要に応じて、サーキットブレーカーを 60 A、DC 24 または 36 V 電源に接続します。

電源ケーブルの延長

⚠ 注意

この製品の電源ケーブルを延長する場合は、次の要件に従う必要があります。電源ケーブルが不適切に延長されると、過剰な電流が発生し、怪我をしたり物的損害につながる可能性があります。

- 単線より線で絶縁定格が 75°C (167°F) 以上のケーブルを使用してください。ケーブルは束ねたり、被覆したり、コンジット中を通したりしないでください。
注：絶縁定格が 105°C (221°F) 以上のケーブルをエンジンスペースの外で使用する場合、最大 3 本のケーブルを束ねて被覆やコンジット内を通すことができます。
- 延長に際しては、業界標準およびベストプラクティスに従う必要があります。
- 延長する長さに基づいて適切なワイヤゲージを使用する必要があります。

延長の長さ	ワイヤゲージの最小値	ワイヤゲージの最適値
0 ~ 3 m (0 ~ 10 ft)	6 AWG (16 mm ²)	6 AWG (16 mm ²)
3 ~ 4.6 m (10 ~ 20 ft.)	6 AWG (16 mm ²)	4 AWG (25 mm ²)
4.6 ~ 9.1 m (20 ~ 30 ft.)	6 AWG (16 mm ²)	2 AWG (35 mm ²)

チャートプロッターへの振動子の接続

- 1 振動子ケーブルを設置したチャートプロッターに配線します。必要に応じて、付属の延長ケーブルまたは長い延長ケーブルを接続します。
- 2 振動子ケーブルの端にロックカラーを取り付けます。
- 3 振動子ケーブルを、チャートプロッターの裏側にある振動子ポートに接続します。
振動子のポートを識別するには、チャートプロッターに付属の説明書を参照します。

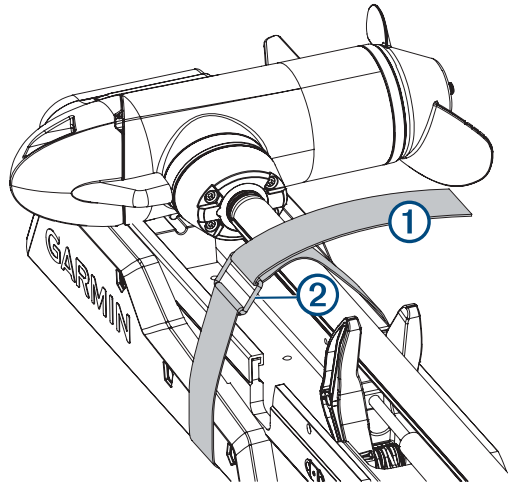
安全ストラップの固定

⚠ 注意

トローリングモーターを収納した後は、モーターが予期せず展開しないように、安全ストラップを必ず固定してください。モーターが予期せず展開すると、怪我をしたり、船舶やトローリングモーターが損傷する可能性があります。

安全ストラップは、モーターを収納位置のベースにしっかりと固定し、意図しない展開を防止します。

1 モーターを収納した状態で、ストラップの長い方の端 ① をモーターの上部に持ち上げます。



2 ストラップの端をストラップのもう一方の端にあるバックル ② に通します。

3 モーターがマウントにしっかりと固定されるまで、ストラップをバックルに通して引きます。

4 ストラップをバックルから引き離し、押し下げてストラップのもう一方の側に固定します。

スタビライザの取り付け

スタビライザは、収納位置にあるトローリングモーターの補助的なサポートを行うオプションアクセサリです。

注記

荒れた条件で航行したり、けん引する場合には、トローリングモーターマウントや船体を損傷するリスクを減らすために、スタビライザーを取り付ける必要があります。

スタビライザの取り付け手順は、スタビライザの箱に記載されています。

フットペダルの取り付け

フットペダルは、トローリングモーターにワイヤレスで接続し、工場出荷時にペアリングされています。

フットペダルボックスには、取り付けと電源に関する詳細な説明が記載されています。操作手順は、Force トローリングモーターのクイックスタートマニュアルに記載されています。

リモコンの取り付け

リモコンは、トローリングモーターにワイヤレスで接続し、工場出荷時にペアリングされています。

操作手順は Force トローリングモーターのクイックスタートマニュアルに記載されています。

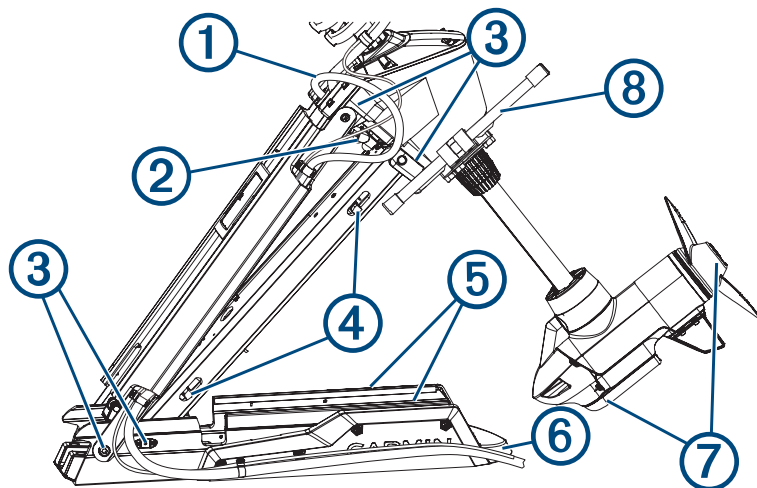
メンテナンスの必要とスケジュール

注記

海水または汽水中でモーターを使用した後は、モーター全体を真水ですすぎ、柔らかいクロスで水性シリコンスプレーを塗布してください。水が侵入すると製品が損傷する可能性があるため、シャフトキャップに強力な水流が当たらないようにしてください。

保証を維持するには、季節に合わせてモーターを準備する際に、一連の定期メンテナンス作業を実施する必要があります。乾燥したほこりの多い環境（砂利道など）でモーターを使用または輸送する場合は、シーズン中にこれらの作業をより頻繁に行う必要があります。

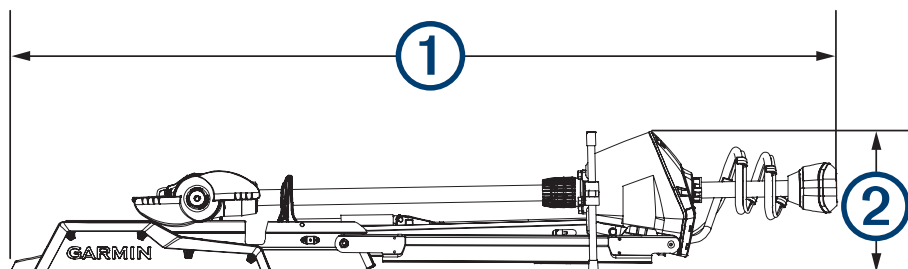
サービスの手順および交換部品の詳細情報については、garmin.com/manuals/force_trolling_motor から Force トローリングモーターのメンテナンスマニュアルをダウンロードしてください。



- ・ 電源ケーブルが摩耗していないか確認し、必要に応じて継ぎ当て、修理、または交換します ①。
- ・ 電源端子を点検して清掃し、必要に応じてナットを締めます ②。
- ・ ヒンジとブッシュを潤滑します ③。
- ・ 格納/展開ラッチ機構を清掃し、潤滑します ④。
- ・ マウントレールを点検し、必要に応じて交換します ⑤。
- ・ マウントバンパーを点検し、必要に応じて交換します ⑥。
- ・ プロペラドライブモーターの陽極を清掃または交換します ⑦。
- ・ 取り付けられている場合は、スタビライザ ⑧ の端にあるラバーストッパーが摩耗していないか点検し、必要に応じて交換します。

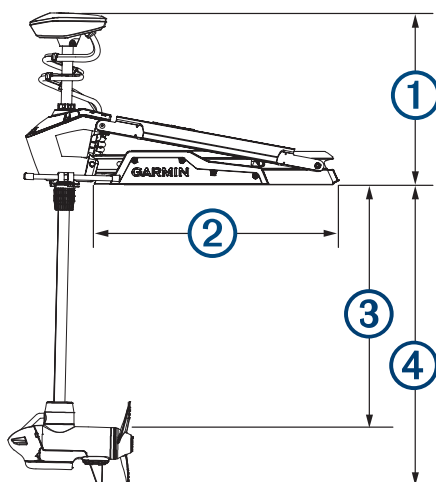
モーター情報

収納時の寸法

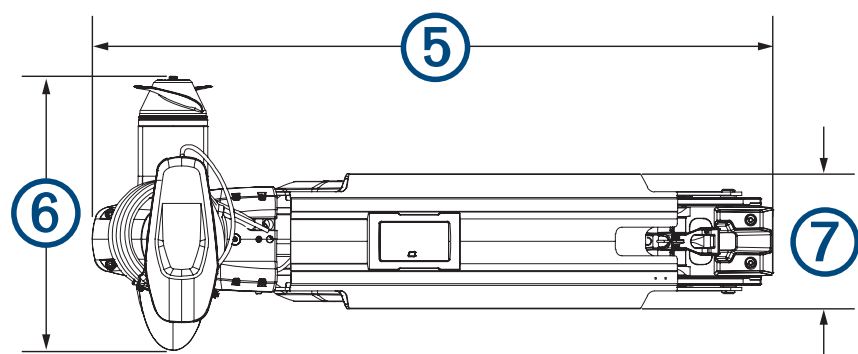


アイテム	50 in.モデル	57 in.モデル
①	1.558 m (61 ⁵ / ₁₆ in.) 最小 1.811 m (71 ⁵ / ₁₆ in.) 最大	1.712 m (67 ³ / ₈ in.) 最小 2.066 m (81 ⁵ / ₁₆ in.) 最大
②	300 mm (11 ¹³ / ₁₆ in.)	340 mm (13 ³ / ₈ in.)

設置寸法



アイテム	50 in.モデル	57 in.モデル
①	461 mm (18 ¹ / ₈ in.) 最小 721 mm (28 ³ / ₈ in.) 最大	488 mm (19 ³ / ₁₆ in.) 最小 817 mm (32 ¹ / ₈ in.) 最大
②	708 mm (27 ⁷ / ₈ in.)	799 mm (31 ⁷ / ₁₆ in.)
③	648 mm (25 ¹ / ₂ in.) 最小 889 mm (35 in.) 最大	737 mm (29 in.) 最小 1.07 m (42 in.) 最大
④	839 mm (33 ¹ / ₁₆ in.) 最小 1.1 m (43 ⁵ / ₁₆ in.) 最大	920 mm (36 ³ / ₁₆ in.) 最小 1.18 m (46 ¹ / ₂ in.) 最大



アイテム	50 in.モデル	57 in.モデル
⑤	931 mm (36 ¹¹ / ₁₆ in.)	1.022 m (40 ¹ / ₄ in.)
⑥	402 mm (15 ¹³ / ₁₆ in.)	402 mm (15 ¹³ / ₁₆ in.)
⑦	203 mm (8 in.)	203 mm (8 in.)

仕様

トロローリングモーター

重量 (モーター、マウント、ケーブル)	50 in.モデル : 30 kg (66 lb.) 57 in.モデル : 31.75 kg (70 lb.)
重量 (スタビライザ)	0.54 kg (1.2 lb.)
動作温度	-5° ~ 40°C (32° ~ 104°F)
保管温度	-40° ~ 85°C (-40° ~ 185°F)
材質	マウントおよびモーターハウジング : アルミニウム シャフトキャップ、ディスプレイパネル、サイドパネル : プラスチック モーターシャフト : グラスファイバー
防水等級	シャフトキャップ : IEC 60529 IPX5 ¹ ステアリングモーターハウジング : IEC 60529 IPX7 ² ディスプレイパネルハウジング : IEC 60529 IPX7 プロペラドライブモーターハウジング : IEC 60529 IPX8 ³
コンパス安全距離	91 cm (3 ft.)
電源ケーブル長	50 in.モデル : 1.2 m (4 ft.) 57 in.モデル : 1.1 m (3.5 ft.)
入力電圧	DC 20 ~ 45 V
入力電流	60 A 連続
ブレーカー (別売)	DC 42 V 以上、連続 60 A に適しています。 注 : 高温下で動作する場合、または他のデバイスと回路を共有している場合は、90 A を超えない大型サーキットブレーカーを使用してシステムを保護できます。船舶の配線が、大型のブレーカーを使用する際の配線基準を満たしていることを確認してから交換する必要があります。
DC 36 V 60 A での主電源の使用	オフ : 72mW 全出力 : 2160 W
無線周波数	2.4 GHz @ 28 dBm 定格

¹ この部品は、あらゆる方向からの浸水 (雨など) に耐えます。

² *この部品は水深 1 m、30 分までの偶発的な浸水に耐えます。

³ *この部品は水深 3 m までの継続的な浸水に耐えます。

リモートコントロール

寸法 (幅×高さ×奥行き)	152 x 52 x 32 mm (6 x 2 x 1 ¹ / ₄ in.)
重量	109 g (3.8 oz.)(電池を含まない)
材質	ガラス充填ナイロン
ディスプレイタイプ	日光読み取り可能な半透過型メモリーインピクセル (MIP)
ディスプレイ解像度	R240 x 240 ピクセル
表示サイズ (直径)	30.2 mm (1 ³ / ₁₆ in.)
動作温度	-15° ~ 55°C (5° ~ 131°F)
保管温度	-40° ~ 85°C (-40° ~ 185°F)
バッテリータイプ	単三電池 x 2 (別売)
電池寿命	240 時間、一般的な用途
無線周波数	2.4 GHz @ 10.0 dBm 定格
防水等級	IEC 60529 IPX7 ⁴
コンパス安全距離	15 cm (6 in.)

© 2019 Garmin Ltd. or its subsidiaries

Garmin®、Garmin ロゴ、ActiveCaptain®、および Force®は、Garmin Ltd.とその子会社の米国およびその他の国における登録商標です。これらの商標を、Garmin 社の明示的な許可なしに使用することはできません。

⁴ 水深 1 m、30 分までの偶発的な浸水に耐えます。

